

東京女子医科大学・早稲田大学連携 先端生命医科学研究教育施設開設にあたって



学校法人 東京女子医科大学
理事長 吉岡 博光



学校法人 早稲田大学
総長 白井 克彦



東京女子医科大学
学長 宮崎 俊一

此の度「東京女子医科大学・早稲田大学連携先端生命医科学研究教育施設」の新築工事が無事竣工の運びとなりました。今日までの多くの方々のご協力とご尽力に深く感謝の意を表します。

世の人々の健康を守る医学の進歩には、生体の生理・病理を解明する基礎研究と、これを応用した治療・創薬などの進歩が必須です。理工学分野の技術の応用によって、これまで医療は大きな進歩を遂げてまいりました。しかし昨今の細胞・分子レベルの基礎的研究、医療研究の進展は、この分野のさらに大きな発展を予感させます。両大学の最先端の研究者・教員たちは、この予感を現実のものとするためには、単なる協力関係を超越して、まさに一体となった研究遂行が必要であると痛感しております。

本施設は、この期待に応えるべく計画されたもので、基礎となるコンセプトは医学と理工学両分野の学問的融合です。これによって国際競争力をもつ新たな医療技術の開発や、生命医学の新しい展開が可能になるものと期待しております。本施設のもうひとつの目的は大学院教育です。医学と理工学の学問的融合というコンセプトのもとに新しい大学院を設立し、先端医療の研究・開発・実践に従事できる研究者・技術者・医師を育成することが目的です。これらの目的を達成するため、本施設では、両大学がひとつの建物の中で、壁で仕切られることなく自由に交流できる環境を実現します。

東京女子医科大学は先端医療の研究と実践を展開してきましたが、早稲田大学とは1965年から40年余にわたり、「医用工学研究施設」を拠点として、人工心臓などの人工臓器、医療計測、医用材料、再生医療分野を中心とする医理工学の研究協力を進め、数々の成果を挙げてまいりました。たとえば細胞シート工学を駆使した角膜・皮膚・心臓などにおける先端再生医療を実現し、この成果は国内外で注目されています。また早稲田大学では、人工心臓・人工血液・医療用ロボット・生体シミュレーターなどの研究で画期的な成果を挙げています。2000年には両大学間で正式な学術交流を締結し、医学研究科先端生命医科学専攻と理工学研究科生命理工学専攻を中心とする共同研究指導や教育の交流へと進化させてまいりました。

新しい連携施設におきましては、脳・がん・遺伝子・幹細胞などに関する基礎研究とともに、医理工の英知を結集して臓器移植・人工臓器・再生医療・バイオマテリアル・バイオセンサー・バイオリクター利用・画像診断・インテリジェント手術・ガンマナイフ・ロボット外科手術・遺伝子診断・テイラーメイド投薬、などの先進的な診断・治療の研究開発を進展させてまいります。創立125周年の早稲田大学と107周年の東京女子医科大学の伝統の上に立つこの連携施設に、国内外の研究者を集め、国際的に卓越した研究教育拠点とすることによって、両大学を世界に大きな存在感を示す大学にしたいと考えております。皆様のご支援をお願い致します。